

第 2 回
市立病院評価委員会

令和 5 年 1 2 月 2 2 日

箕 面 市 議 会

目 次

●市立病院評価委員会（令和5年12月22日）

協議事項1	市立病院評価委員会の設置経過について	評－2
協議事項2	市立病院の評価スキームについて	評－2
協議事項3	その他	評－19

- 日 時 令和5年12月22日（金曜日）
午後1時0分開会
午後2時26分閉会

- 場 所 箕面市議会委員会室

●出席した委員

委員長	中 嶋 三四郎 君	副委員長	山 根 ひとみ 君
委員	名 手 宏 樹 君	委員	大 脇 典 子 君
〃	中 西 智 子 君	〃	中 井 博 幸 君

●欠席した委員

委員 田 中 真由美 君

●審査した事件

協議事項1 市立病院評価委員会の設置経過について
協議事項2 市立病院の評価スキームについて
協議事項3 その他

午後1時0分 開会

●中嶋委員長 皆さん、こんにちは。午前中に引き続きましてお集まりをいただきまして、ありがとうございます。

ただいまから箕面市議会市立病院評価委員会を開催させていただきます。

それでは、まず、出席状況のご報告をさせていただきますが、本日、田中委員から欠席の連絡が届いております。委員会のほうは成立をいたしておりますので、よろしく願いいたします。

次に、資料のほうは事前に共有させていただいた分と、すみません、今日追加で私のほうから送らせていただいた分がございますので、その2つ。もしなければ、前を見ていただけたらと思いますので。見にくかったら、ちょっとごめんなさい。紙が必要な方がいたら、ちょっとちっちゃいので出してきましたか。すみません、そちらの資料を使いながら進めさせていただきます。

協議事項1 市立病院評価委員会の設置経過について

●中嶋委員長 それでは、レジュメのほうを見ていただきまして、まず1つ目ですが、この評価委員会の設置経緯についてということで、もうご承知いただいているというふうに思いますが、市立病院の指定管理者制度の導入の議案が可決された際、4会派の皆さんから附帯決議が出されました。その中で、市に対して求めることと併せて、議会のほうも指定管理者の運営についてチェックをしていこうという態度表明がありましたので、それを受けまして、前々回の議会改革検討会議のほうで諮らせていただきまして、その議会のチェック、評価をするスキームを検討する委員会を設置させていただいたところでございます。本日が第1回目の評価委員会の開催になっております。

委員会の運営、構成につきましては、各政策会派からの代表ということで皆さんにご出席をいただいております。また、私は進行に専念させていただきますので、箕面政友会からはもう1名、大脇委員を

選出いただいております。任期は一応1年で、議事録は公開されますし、動画でもこの会議が配信されておりますので、よろしく願いいたします。

まず、以上が設置経過ですが、事務局、何か補足ありますか。

●議会事務局 特にごございません。

●中嶋委員長 ないですか。

委員の皆さんのほうから何かございますでしょうか。よろしいですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

●中嶋委員長 では、1つ目の経過の共有につきましては以上にさせていただきます。

協議事項2 市立病院の評価スキームについて

●中嶋委員長 続きまして、2つ目の市立病院の評価スキームについてということなのですが、今日は特に何かを決定するということではございませんので、スキームのイメージと今後の進め方についてご意見をいただけたらなというふうに思っております。

ただ、ちょっと何もないと議論にならないなと思ったので、私のほうで、すみません、資料を作ろうと思ったんですが、直前になってしまいまして、事前にお渡しすることができなかったんですが、そちらを別紙で今日追加で配付させていただきましたので、まず、ざくっとその話をさせていただいて、皆さんからもご意見を今日は出していただきまして、今後の進め方を確認できたらなと思っております。

まず、資料のほう、ざくっと説明させていただきますと、評価スキームですので、要するに評価をするためのプロセスを決めるということになるかと思っております。

まず、上から順番に、それに該当するイメージを勝手に書いておりますが、ある程度の期間をかけた評価になるであろうということで、勝手に6か月程度と書いていますが、別に6か月でやろうということ決めてはおりませんが、年がら年中やるというのもあれなので、一定の期間をもってそういうプロセスをやるというイメージを書いています。

そのプロセスの中で簡単に段階を分けると、評価

をするための、まず、調査であったり、実態を把握するフェーズがありまして、それを分析したり、深めたりするフェーズがありまして、それを最後、この評価委員会、ここで取りまとめをするという、一応、今、想定はしているんですが、評価委員会のほうで要望事項であったり、評価の取りまとめをしていただくというふうな段階があるかなと思っています。

その最後の後ろのところなんです、協議の場というふうに書いてありますが、今回のスキームのイメージでいうと、ここが一番みそかなというふうに思っておりまして、通常、指定管理者制度を導入している先事例を見ますと、箕面市も同じなんです、市が第三者機関を設置をしまして、その中で病院の運営状況について専門的な見地をお持ちの方に入っていただく形で評価をするということが行われています。ただ、議会は、議決機関ですので、そういう第三者機関には基本的には入れないという位置づけになりますので、先事例のほうを見ると、議会がそういうチェックに関与しているという例はあまりというか、全くありません、現状としては。ただ、やはり我々が評価をする上で、当然、市とのやり取りは必要だと思いますが、指定管理者に直接要望を伝えたり、議論をするということも一定必要かなというふうに思っておりますので、その3者、市議会、それから箕面市の担当部局、今、内定をしている指定管理者でいうと協和会ということで、その3者と、委員会みたいに何かを詰めたりみたいなことではなく、評価について意見交換をしたり、議会として市民の方が望んでいる要望、改善を伝えたりというふうなことをする場をオフィシャルな形で持てないかなというイメージを書いております。というのがフェーズにおける、まず、ざくっとしたイメージです。

一応、フェーズのところの下に、具体的に、じゃあ、そのフェーズでどういうことをやるのかっていうのは何となく書いてはいるんですが、別にこれやると決めたわけではないので、イメージとして書いてあるというふうにご理解をください。書いてある

こととしては、調査フェーズにおいては市民の方の満足度を把握する、もしくは改善してほしいという要望の内容を把握するということがまず、第一かなというふうに思っておりまして、手法的なイメージとしてはアンケートのような手法を取るのが一般的かなというふうに思って、書いています。

分析のところは、当然、アンケートを取った場合は単純、クロスそれぞれ分析をするということになるんですが、加えて、直接アンケートで頂いた意見をより深く聞くという手法であったり、これは例えば個人であったり、グループであったり、今日出た意見交換会の場であったり、様々な機会を活用してということになるかと思いますが、そういう手法もあるかなと。ユーザビリティというのは、要するに直訳すると、操作性みたいな、病院が使いやすくなっているか、実際に病院に行かれた方がどういう不便さを感じているかみたいな、そういう視点も一般的な調査としてはあるみたいなので、そういう視点もあるかなというふうなことを取りあえず書いています。

これが段階のイメージでして、改善サイクルというふうに書いてあるのは、1回目のフェーズは、要するにスタート段階ですので何も積みたまったものはありませんので、実態を把握して、分析をして、取りまとめをして、協議の場に臨むというのが1回目のフェーズかなと思っています。2回目以降、このフェーズをサイクルを続けていく中で言うと、例えばなんです、協議の場の中において改善まではいかなかったけどこういうことが課題ですねというふうな、仮に共通認識ができた場合、次のサイクルの中でそこにポイントを絞って、じゃあ、それは改善されたのかということ把握をしたり、それをどう改善するのかということ分析したりとか、そういう次のサイクルとしてできることは出てくるかなというイメージがあったので、そういうことを勝手に書いていますっていうのが中身の、まず、イメージの話です。

最後のところですが、ここからが今後の進め方のイメージなんです、どうしても現状、改選を挟み

ますので、ある程度期間を想定しながら進めていくことになろうかなというふうに思っています。ざっくり言うと、改選前にできることと改選後にやることとして分けないといけないなというふうに思っているの、それを何となくフェーズとかいう形で書いていますが、一応、ゴールのイメージとしては2025年の4月から引継ぎ期間が始まるという今、想定になっていますので、その段階からいろいろ実験を始めていけたらどうかなというイメージを書いています。2026年の4月からが正式な指定管理期間のスタートというふうに聞いていますので、その段階以降が正式な評価スキームの運用開始というフェーズに入る感じかなと思っています。

今日の話は特に改選前のところ、要するに今から何をやるのかという話ですので、そこのご議論をぜひいただけたらと思いますが、このイメージを今日、是としていただけるのであれば、改選前の段階でぜひ進めたいなというふうに思っているのは、その初めの調査フェーズにおいてどういう評価基準であったり、評価項目を設定するのかということを考えるための材料としてアンケートをやろうというふうなことはありではないかなというふうに思っています。要は市のほうがやる第三者機関は、どちらかという、専門的な視点であったり、経営的な視点での評価が主になろうかなというふうに思っていますので、議会のほうがやる評価はより市民の方寄りの評価といますか、市民の方が実際に病院をどう評価しているかと、もしくはどういうところに改善点を感じておられるかということの評価として取りまとめるようなことができたらいんじゃないかなというイメージです。なので、ただ、今は想像でこういうことなんじゃないかというのはあるんですけども、実際に聞いてみないと分からないこともあろうかと思えますので、単純に言うと、市民の方が何をもちて病院を評価したり、病院に対しての満足度を感じているのか。単純な話で言えば、待ち時間が短いことがいいと感じる人もいるだろうし、診療科がたくさんあるということを感じる、もしくはピンポイントにこの診療科があれば満足なんだというふうを感じ

る方、それぞれ市民の方によってもばらばらだとは思いますが、そういうことを一定の数把握することで、どのポイントで評価をしていけばいいのかということをもまずは考えていく段階に入れるかなということを書かせていただいております。

ざくっと資料のほうは以上の説明になりますので、あくまで今日お話をそれぞれ出させていただくための材料だということで、これ以外のことも含めていろいろご意見を出していただけたらありがたいなと思っております。ということで、説明は以上にさせていただきますので、それぞれもう自由にご意見があれば出していただけたらと思います。

どうぞ。

●山根委員 この資料を拝見すると、仮にということで期間は6か月程度とされていますけれども、やはりスピード感を持って、今、変えてほしいなと思ってはる市民の方がもう1年後によりやく取り上げてもらったっていうのがないように、長くて6か月っていうイメージが私もしています。それで次の6か月につなげていくっていうようなサイクルがよいのではないかなっていうのと、あと、もう一つはアンケートの取り方なんですけれども、やはり記憶の新しいうちに、特に初めの頃は全ての患者さん、ご家族の方に伺いたいというような気持ちですので、本当に出口であったり、処方箋の、可能かどうか分かりませんが、何か封筒の端っこであったり、L o G o フォームのQRコードを貼って、そこから帰ってから思い出して、入力してもらえるような、もう一つは紙で書いて、その場で放り込んでもらうっていう、改めて何かアンケート取りますって、じゃあ、今日から1か月間やりましょうっていうんじゃなく、その都度っていうのは私のイメージしているところです。以上です。

●中嶋委員長 ありがとうございます。

今、ちょっとアンケートの話が出ましたが、もしアンケート的なことを手法としてやる、もしくはやるに当たっての何かご意見があればついでにはほかの方も出していただければと思いますが。

どうぞ。

●大協委員 今回のアンケートの項目っていうのがあると思うんですけど、このアンケートの項目っていうのは今、ここの場で出すのか、それとももう少し政策会派に持ち帰るとか、その辺りを説明お願いしていいですか。

●中嶋委員長 基本的にはこの場では決められないと思いますので、今日は一旦持ち帰りをいただこうと思っていますし、項目としてのご意見を出していただく場合は政策会派としての意見集約をお願いしたいなというふうに思っています。

どうぞ、自由に。もう当てませんので、勝手にしゃべってください。マイクだけ取り合って、しゃべってください。

●山根委員 すみません、評価の協議の場ですけれども、この市議会と市と指定管理者という3者で会議の場を持つのか、この評価委員会から一定、文書をまとめ上げるのかっていうのはどういったイメージでしょうか。

●中嶋委員長 これは僕のイメージなんで、皆さん、それぞれイメージがあれば出していただけたらと思うんですが、基本的にはこの評価委員会自体は、先ほどの経過で述べたように、本会議で議決をいただいた一番オフィシャルな協議の場という位置づけになりますので、今は評価スキームを検討する段階です。こういう形でやらせていただけていますが、実際にそのスキームを運用する段階になった以降についてはこの評価委員会の中で市の担当部局、それから指定管理者に来ていただいて、議論をする、意見を交わし合うということを想定はしています。ただ、その場を持つということは一応ゴールではあるんですけども、評価委員会としての何か取りまとめみたいなのは、それはそれで必要だというふうに思っていますので、一旦、評価委員会としての要望事項とか取りまとめは行った上で、それを材料に協議の場に臨ませていただくような流れがいいのかなとは思っています。

どうぞ。

●中西委員 ちょっとそもそも論のところなんですけど、評価委員会っていう、今、名称がついている

んですけど、評価をするのかなっていうふうに思っていたんですけど、今日の説明の話では意見を述べ合うというか、イメージが、まず、この会議体のイメージなんですけれども、何かを評価しようと思ったらやっぱりそれなりの情報収集と情報提供してもらわな、資料提供も要るじゃないですか。差し当たって、この場で、議会でこんなスキームでこんなことしたいんですよと決めたとして、それを病院側がどこまで受け入れてくれるのかどうかっていうところがあるかと思うんですね。例えばこういう部分の資料も出してほしいとかって言ったときに、いや、それは出せないよとかっていうのもきっとあるかと思うんです。まずはここで一旦決めるけれども、最終的には病院側との合意形成をどんな形で持っていこうと思ってるのかとか、その辺はイメージとしてどうですかね。

●中嶋委員長 ごめんなさい、その頂ける資料のあるなしみたいなことがどういう評価をするためのものなのかがイメージできないので、僕の中ではあんまりそういう想定はないです。資料としては、例えば市の第三者機関が行う評価に関連する資料は当然、この場だけではなく、全議員に共有されるものだというふうに理解していますので、何の資料が何のために要るというイメージなのかがちょっと僕には分からないので、もう少し補足いただけたらと思います。

●中西委員 だから、結局、どこまで評価、今、差し当たって市民の満足度っていうふうにいただいているんですけども、市民満足度だけでいいのかどうかっていう議論もまた、これから続いていこうかと思うんですね。市民満足度でいうと、病院のほうでも市民満足度、市民アンケート取っておられるし、指定管理者の評価の合議には必ずもう決まって同じ資料が提出されていて、アンケートと、それから利用者間の話合い、懇談というか、利用者間で話し合われて、出てきた課題の抽出とか、いろいろあるんですけども、それとかぶるところがある部分をどう捉えていくのか。例えば、議会専用のアンケートという形で何かそういう収集をされるのか、あるい

は市が行っているのか、病院がアンケートを取ら
るんですけれども、それをこちらでも流用させていただ
くというイメージなのか、まずはその辺とかはどう
なんですか。

●中嶋委員長 別にどっちでもいいと思うんですけ
ど、基本的には僕はこのスキームは議会の独立した
スキームだというふうに思っていますので、その前
提となるものは、情報であれ何であれ、議会が収集
したものをベースに議論するべきだと思っています
けど、それに補足するようなものであったり、類似
のものがあるなら、そこの整合性というか、連動性
は一定、確かに議論は必要かなというふうには思
います。ただ、それがあからを前提にこっち側を考
えているわけではないので、あくまでこっち側がま
ず、考えたいことがあって、そのための手法があっ
て、それに類似するものをどう扱うかっていうのは、
順番でいうとそういう順番なのかな、考え方の順番
としてはそういう考え方の順番なのかなと思ってい
るので、今の時点でどの資料がどうあるかというこ
とは、何を調べるかがないとちょっとイメージでき
ないので。具体的に中西委員がどういう評価をした
いのでどういう資料の取扱いが気になっているのか
ということをお願いしたいほうが、議論にはなる
かなと。

●中西委員 いや、むしろ、私はこの評価委員会の
イメージがよく分かっていないので、この場でいろ
いろ皆さんのご意見等も聞きながら、自分が持って
いるイメージを形づくっていきたく思っているの
で、ちょっといろいろお聞きをしているところなん
です。

●中嶋委員長 一定、整合性を図る必要が出てきた
らそれはそうなるかなとは思いますが。

●中西委員 いや、整合性を図るかどうかっていうこ
ともあるし、例えばアンケートを下さいっていう箱
をどっかに設置するとしたら、病院が設置している
アンケートと市議会の設置するアンケートがあると
いうイメージなのかどうかのかわからないのもちょ
っとよく分からなかったのですね。

●中嶋委員長 基本的に今言っているアンケートは、

紙を想定していません、僕のイメージは。なぜなら、
それは作業量との兼ね合いの問題がまずあるという
ことと、統計を取るという意味合いが前提だと思っ
ていますので、悉皆ではないという前提のアンケー
トであり、データの取り方にしようと思っ
ていますので、要するに紙論で言われるような、書けない人
がいるじゃないとか、扱えない人がいるじゃない
かみたいなことを力点に置いたものを想定はしてい
ないという感じになります。そういう意味でいうと、
仮に例えば、じゃあ、病院が紙のアンケートを別で
やっていますということが、我々の調べることに連
動するデータ、結果なのであれば、それは共有して
いただくような整合性は必要かなとは思いますが。

ちなみに、これ、別にアンケートって誰かが取っ
て、誰かがまとめてくれるわけではないんですよ。
事務局も含めて作業量には限界がありますので、あ
る程度、実際の作業量もイメージをしながら現実的
には考えていかないといけないと思っていますので、
そこはどこまでどれをどういうふうにするかは、今、
別に決めなくていいと思いますよ、今決めなくてい
いと思うので、議論としてはそういう議論が要るか
なという気はします。

●中井委員 よくネットなんかで見ておって、例え
ば地図アプリでも何でも箕面市立病院というところ
を押したら評価何点というのが出てきますやん。

●中嶋委員長 出てきますね。

●中井委員 5が幾つ、4が幾つ、僕はあれで十分
ちがうかなと思うんです。あれ見ていたら、結構、
病院の評価でも、あつ、ここの病院、物すごい評価、
4.3やわとか、あつ、ここ、3.4やわ。ほんで、ずつ
と下の評価、自由記述のところ読んでいたら、あつ、
ああ、そういうことかと。お医者さん、ごっつい丁
寧にやってくれた言う人もありや、ええかげんな診
療しやがってと書いてはる人もいてるけども、トー
タルで見たらやっぱり僕らが見て、よいと思う病院
は評価が高いし、僕ら、買う品物でもそうですやん。
やっぱり評価4よりも4.5のほうが、ああ、やっぱ
りこれだけみんな、評価してんねんな、僕は議会と
してはそれぐらいでええんちがうかなと。それで

今、公立公営でやっているのが例えば3.7やって、次、はかって3.5やったら、これ、ちょっと何かおかしいんちがうかいう話やろうし、今度4に上がってんやったら、いや、よかったんちがうんと。

ほんで、もしも下がってんやったら、それは我々がどこが悪いっていうのはやっぱり、ではなしに、専門的なところが評価で、いやいや、ちょっと診療で時間かかり過ぎていますとかなんとか、それは我々が見て分からんようなところになってくると思うんで、それは専門的な人が評価をしたらええ。我々はただ、ざくっとした全体の、半年間でこっだけ上がりました、下がりましたというぐらいの評価でええのんちがうかな。ほんで、あとはどこがっていうのは専門家の人来てもうて、いやいや、こうですよという話を聞いて、それは改善できるんだったら改善してくださいねぐらいにしとかんと、我々が分からんのに、もっと検査ししっかりせなあきませんでとか言うたって、それは分からんと思うわ。

●中嶋委員長 今おっしゃっていただいたように、まず、満足度という言い方をしたのは、今、中井委員が言っていたように、指定管理者であろうと、直営であろうと、市立病院というものを市民の方がどう満足する形で運営できているのかということとは少し感覚的なことかもしれませんが、そういう形で評価したほうが分かりやすいんじゃないかな。

●中井委員 いや、その感覚的なことが僕は大事やと思うね。

●中嶋委員長 そうですね。

●中井委員 せやから、例えば入り口のところにボタン5つあって、あなたは何ですかいうて、僕、3とか僕、5とかいうて、それが100人、200人、1,000人、2,000人になってきたら、それはもう自然と全体の評価っていうのは僕は出てくるんちがうかなと思うんやけど、満足度というか、ああ、皆さん、満足してくれてはんのやと、それを今からやっとかげばどのように変化したかっていうのが見れるけど。

●中嶋委員長 おっしゃるとおり。かつ、じゃあ、

なぜ3なのか、なぜ3.5なのかということのを可能な限り掘り下げてお聞きをしたいというのがアンケート的な意味合いかなと思っています。

今言われたように、じゃあ、その改善策までを議会が示したり、議論するのかというと、必ずしも、今、中井委員が言われたように、そうではないことのほうがきっと多いような気はするんですね。そういう意味で協議の場が理想だなというふうに思っていて、要するにこれだけの人に聞いた結果、さっきの話でいうと、待ち時間が長いっていうことをみんな感じていますよと。それは僕らにはなぜ待ち時間が長いのかまで分からないけども、じゃあ、何でそういうことになっているんですかという意見交換がやっぱり要ると思うんですね。それは市民の側の感じていることを議会が指定管理者とか市に伝えるということだと思つので、じゃあ、指定管理者もそういう課題を把握しました、もしくは認識してましたけどまだ改善できていませんでしたということが共通認識になるのであれば、そういう意味で、改善サイクルというふうに書いてあるのは、じゃあ、次のサイクルに入ったときに少なくとも前回のサイクルの評価として待ち時間が長いということが課題なんだったとしたら、それをより精度が高く把握できるような調査の仕方をしてほしいということにつながってって、それが結果、時間が短くなりましたねっていう改善をするのは僕らじゃないので、指定管理者、ないし、それを管理する、監督する市がそこを指導するということになるので、そういう議会と指定管理者、市の、ある種、協力の仕方というか、チェックと評価と実践のサイクルとしてうまく機能するようなものになればいいんじゃないかなというふうに思います。

●中井委員 せやから、我々が例えば自由記述でやられてしもたら、我々はそれをちゃんと整理できへんやん。そやけど、チャットというのが、今、何か便利なんあるやん。あなたは何でこの商品気に入りましたか、高いとか、いや、デザインが悪いとかいうのがあるやん。それを押していくようにしたら、ほんなら、自然と統計っていうのはすぐ出てく

るやん。せやから、そんなふうな仕組みにしとかんと、これ、紙で書いて、自由記述なんて言うてしもたら、今度、分析すのが大変やと思うわ。

●中嶋委員長 おっしゃるとおりでございます。なので、紙を想定していないというのはまさにそういうことも意味合いとしてはあります。ただ、それを補う手法もあるので、そういう意味で、分析フェーズでインタビューとかモニターとかいうことを含めているのは、そういうのは事例として検討すること、もしくは事例として考えることで浮かび上がってくることもあるので、例えば多くの人を感じている課題の中身が実際に、じゃあ、何なのかっていうことをもうちょっと掘り下げて考えたり、聞いたりしてみるとということも通常のユーザーリサーチとしてあることなので、そういう手法の組合せとしてはそういうこともありなのかなと。ただ、初めの段階のイメージとしては今、極めて中井委員が言っていたのが僕のイメージでもあります。

●中井委員 せやから、課題にしたかて、待ち時間であるとか料金であるとか、幾つかで分けてしまえば、もうそれで済んでしまうんちゃう。

●中嶋委員長 ちょっとその辺の細分化の仕方はそれぞれ多分、皆さんもイメージがおありだと思うのですが、できるだけ課題抽出はできたほうがいいと思うんで、そういうことを念頭に今後考えたいなと思っています。

どうぞ。

●名手委員 もう今、話しされていましたが、インターネット使って集約っちゃうのが簡単にできるっちゃうのはすごいよく分かるんですけども、質問も単純化していくっちゃうの、よく分かるんですけど、あと、集約する、ただ、やっぱりそれは使いにくい、使えない人がかなりおるような、まだ、気がするんですよ。年齢の高い方に限定するとか、それはちょっとよく分かりませんが、だから、その人たちの、さっき言ったように、やっぱり紙の部分っちゃうの、同じようなアンケートで、別に打ち込み直すか何かするかということにもなるんやろう

けども、そういうのも必要なかなというふうに私は感じるんです、いろんな方から広く意見を頂こうということになると。その辺はちょっとやっぱり考慮は必要なのかなと。それは後でインタビューとかで補うというの、発案がありましたけども、というように思います。

それと、協議というのは、これはイメージとしては、市との協議を個別にやるのか、指定管理者との協議をまた別途、個別にやるのか、この3者で、議会とやるというイメージなのかと、この協議の場合というイメージがどういうふうな形になるのかというのと、それで、かなりまとまった市民の声なり、要望などがそこでどう受け止められていく仕組みになっていくのかなという、そこがちょっと心配なんですけど、そこは決めることじゃないでしょうけども、イメージ的にどういうふうに進めていくのかというところが気になります。

●中嶋委員長 まず、協議の場については、先ほども言いましたが、この評価委員会という会議体において、市の担当部局、それから指定管理者に出席をいただいて、意見交換をするというイメージです。

●名手委員 一緒につちゅうことですね。全体でつちゅうことですね。

●中嶋委員長 一緒に、はい。なので、議会としても直接指定管理者から意見を聞いたり、こちら側の要望を伝えたりと、もしくは先ほど言ったような取りまとめたことの原因、中身について確認すべきようなことがあれば、当然、その場でやっていただいたらいいんじゃないかなと思っています。

もう一つの、じゃあ、その取りまとめたことを要望事項としてお伝えをしたときにそれが実現するかどうかということは、当然、すぐか、すぐじゃないかも含めて、実現することもあれば、実現しないこともあろうかと思えますけども、一応、議会という組織として、最もオフィシャルに要望していることを聞かないということは一定、指定管理者としての姿勢として当然よくないということ、総意として出すんでね、取りまとめは。個々の議員がやるわけ

でもなく、一政策会派がやるわけでもなく、議会という組織の総意として出すわけですから、その出されたことを全く聞かないみたいなことになれば、当然、それ、指定管理者としての評価が低くなるわけであって、そういうことが指定管理者に跳ね返ってくることは少なからずあると思いますので、オフィシャルな形でこれをやることで効果は一定あると、出てくるというふうには思っています。

ただ、取りまとめる内容が当然、総意ですので、何でもかんでも言いたいこと全部詰め込めるわけではなく、全政策会派がそれに賛同できることを中心にまずは取りまとめていくということになろうかと思っておりますので、その点だけ、別に全ての政策会派が思っていることを全部入れ込むということではないということだけ、ご理解いただいといたらありがたいなとは思っています。

●中井委員 僕が監査委員になっていて、全国都市監査委員会かな、何か行ったときに、そのときにその会長さんが話ししてはったけど、監査委員の仕事って何やねんって言われたら、監査委員は実際見て、ほんまに細かいとこまでほじくり返して、分かるか分からんかいうたら、これ、専門的な、それこそ、公認会計士でもずっと時間かけて見たら分かるけども、分からんやろうと。一発で、見て、そんな分かる技量みたいなあれへんと。ただ、監査委員が監査するよということが大事なんやと。ええかげんなことしてたら、監査委員にこれ、もしも見つかって、はじかれてしまったときに大変やということみんな、きっちりするんやと。

せやから、我々の病院の評価委員会っていうのも、次やってくれはる協和会さんが、いや、こんなええかげんなことしたら箕面市は市議会が監査みたいな入って、これ、うるさいでということにすることが我々、私は本当の目的違うかなと。本当の細かいことなんて、言うたら悪いけど、ほんまに検査、これ、必要なんか、どやねんって言われたらわしら分からん。けども、やっぱり患者さんが100人おって、70人までがこんな検査してくれはってよかったわと思ってくれはったらもうそれはええわけや。

せやさかい、そここのところの、やっぱり我々は満足度を見て、あくまで市民の人が協和会さんに対してこんなこと、みんな、望んでいるよと、こここのところは不満やと思っているよというところを指摘するっていうことだけが我々は大事なことなんちがうかな。だから、監査委員の監査いうみたいなもんで、とにかくちゃんとしとかな言われるでというのが大事なんやと僕は思うねんけどな。

●中嶋委員長 ありがとうございます。

本当に、今言っていたように、まずは機能、役割的な効果としては、やっぱり議会がオフィシャルな形でこういうことをするというところに意味があるんだろうなというふうにはもともと提案する段階でも思っています。あと、それに作業的な効果がどこまでできるんかっていうのは未知数ですので、そこは今後、いろいろ議論しながらやっていけたらいいんじゃないかなと思っていますので、ちょっと名手委員のご質問に全部答え切れたかどうかは分かりませんが、あと、アンケートについてはそもそもちょっと理解を深めないといけないと思うんですが、このアンケートだけが全てを表現したり、そこに全てを集約していくものではなくて、考えるための一つの材料としての目的化であり、手段ですので、そういう意味で補い切れないことが一つの手法で出てくるというのは想定内です。なので、それを補う手法を組み合わせながら、うまく全体を把握したり、全体の掘り下げをしていくということが効果的な運営としても大事だというふうに思っていますので、ちょっとその辺はご理解をあらかじめいただいとけるとうれしいなと思っておりますし、それに、先ほど中西委員からもありましたけども、連動したりできるものがあれば当然、そこは併せてうまく使っていくということでございますので、よろしくお願ひします。

どうぞ。

●中西委員 ちょっと今さらながらで恐縮なんですけど、そもそもの評価の目的というものを私はちゃんと議論しときたいなと思うんですね。

私が想定している目的なんですけれども、市立病

院が公営で、直営でやっていたことが、運営が民営化されるということなので、公立病院としての医療がしっかりと担保されているのかっていうところにやっぱり着目をしたいなというふうに思っているのが一つと、この間、私たちもいろんな市民の方に意見聴取していたときに、障害のある方で民間病院で受け入れてもらえなかったのが市立病院ではずっと受け入れてもらっていて助かったんだけど、それがどうなるんだろうとか、あるいはよそでは本当に駄目だった人たちが手厚くやってもらえたとか、中には医療費が払えない人もいらっしやるとか、いろんなパターンがあるかと思うんですけども、そういうことも含めて一つの医療の質と言われている部分の一側面だろうと思うんですけども、その辺、市民の方が懸念されていた部分がしっかりと引き継がれて、落とし込まれているのかっていう辺に私は着目点の一つに置きたいとは思っているんですけども、7割、皆さんがよしと言っていたらいいとしましよよというご意見もあって、そういう視点で見ると、いや、少数の人たちが本当に困っていた部分をちゃんとそこはきちっと見ていこうねというふうになるのか、いわゆる目的を私たちが市議会として評価をするところの意味とか目的というものをちゃんと明確に最初に議論をしといたほうがいいのかなっていうふうに思いました。

●中嶋委員長 別にどちらかに絞ろうと、まずしているわけではないんですが、ちなみに、また今後でもいいのであれなんですけど、仮に一つの事例の質にフォーカスする場合、僕にはそれを把握して、やるというふうなスキームのイメージが分からないので、それをこの評価スキームとして考える場合はどういう評価になるのかは言っていたらありがたいなというのと、一応、僕の提案の中身は、当然、満足度の把握はするんですけども、ある程度それを深掘りするというのは、その中には満足度が低い理由として質に対しての不満も出てくるでしょうし、そういうことがほかにも事例として多分、含まれていると思うんですね。なので、それを全部、じゃあ、アンケートで取れるかというのと取れないので、要す

るに補足的な手段としてインタビューとか、そういうものをクロスさせているのは、例えば、じゃあ、これは本当にけしからん事例だということが出てきた場合に、当然、そこに掘り下げて、議会としてやることも可能性としてはあると思うんですよ。

なので、今言っていることは別にどちらかに寄せた議論をしているわけじゃなくて、現実的な手段の中でカバーできる範囲としては、そういうこともちゃんと含んでいますよということであるというのはご理解をいただけたらありがたいし、違う手法、スキームがあるならぜひどんどん出していただけたらということをやまず、あらかじめ申した上で、中西委員、どうぞ。

●中西委員 ごめんなさい、その前に、私、スキームに入る前の、我々が病院を評価をするということの目的を明確にしとしましよっていう意味です。すみません。その後でいろんなスキームの議論はまた、詰めていったらいいと思います。

●中嶋委員長 どうぞ。

●中井委員 今のまず、市立病院に100%、市民の皆さんが満足しているかっていうと、決してそうじゃないと思うんですよ。やり方が変わったけども、今まで100人のうちの50人が満足しているところが今度は60人満足したら、ならそれはそれで僕はそのほうがいいと思うんですよ。給食で単価100円の給食もありゃ、80円の給食もある。120円の給食もある。120円の給食にすれば100%の人が食べてくれる。100円の給食やったら20%が残す。80円やったら、残念やけど6割の人が残しますねんって、これ、それが正しいかなんて、それは分かれへん。せやったら、やっぱり一番どれがみんなに人気があったかってトータルで考えて、それを評価を下していかざるを得んと思う。

せやから、今の公立やから、これがもうまずベースにあって、これ以上、それ、もちろんこれ以上せなあかんねんけども、これが全てが正しいとは僕は限れへんと思う。そこのところを、せやさかいに、今度は経営主体が替わって、やり方が変わって、満足する人が増えた。僕はそれで、もう市民が求めて

いる病院で、それでええん違うかなと。これが下がったっていうなら、そんならこれは何で下がっているんやということは突き詰めなあかんことやろうと思うけども、我々の仕事は、せやから、下がったときにこれは改善する方法ないのか、元と比べてどこがどう変わったんやということは、我々はもちろん議会として言うていかなあかんことやし。せやから、まずは僕は今のところからきっちり基本となるデータベースというの、それをとにかくやっていって、今後どのように変化していくかということを見るのが一番大事やと僕は思う。

●中西委員 基本となるのって、やっていくってどういう意味ですか。

●中井委員 えっ、何が。

(「マイク」と呼ぶ者あり)

●中西委員 基本となるのをやっていくというのはどういうことですか。

●中井委員 せやから、今の満足度が80やったら80、この次に満足度が75に下がった。

●中嶋委員長 今時点をベースにして今後を評価していこうということ。

●中井委員 そうそうそうそうそう。

●中西委員 その評価の目的はどのように。

●中井委員 そやから、あなた方が言うている、サービスが下がる、公立病院から替わったら下がるって言うているけども、それが実際、下がるのかどうかという。

●中西委員 いや、下がると言っていないよ。下がるんではないかという危惧をしているというのがあります。ごめんなさい。すみません、どうぞ。

●中嶋委員長 まず、目的の話にちょっと戻しますけど、この評価委員会のやるべきことを考える上で、今日この内容をご提示する上で、中西委員が言っていることも分かるんですよ、分かるので、これを提案する上で何を考えたかという、まず、第三者機関が何をするのかを踏まえないといけないというふうに思ったんですね。じゃあ、第三者機関は何をするかという、当然、指定管理者がどう運営されているか、どういう医療を提供できているかというこ

とをチェックするんですけど、中でも、先ほど言われたように、公立病院という位置づけとしてやらないといけないこと、絶対にやってもらわないといけないことがありますので、それが実際にどういう運営状況なのか、実施がしっかりと行われているのかということは第三者機関がまず、評価すべきことだと思っているし、そのための資料であったりとか実態的な話はその中で出てくるというふうに僕は認識しているんですね。それが来月ぐらいに箕面市立病院指定管理者評価委員会が評価スキームを考えていた結果が多分出てくると思うので、それをチェックしないといけないなどは思っているんですけど、そういうことだろうということを想定、まず、しています。

その政策的医療、公立病院としてやるべき医療がちゃんとできているのかどうかということ市がチェックした上で、じゃあ、議会はどうかチェックするのかということ考えたときに、要するに指定管理者に対して市は政策的医療の分の費用負担はするんですね。なので、予算の執行が残ります、その部分は、指定管理料はないですが、その政策的医療に対しての予算執行は残りますので、その予算を出すに足る運営状況かどうかということは通常の議会審議の中でできると僕は思っています、ということ想定しています、併せて。なので、それと同じことを評価委員会でやってもしょうがないので、じゃあ、評価委員会としては何を評価すべきかということ考えたときに、僕は指定管理者になったということ契機に、中井委員が言われたように、市民の方が、あっ、いい病院になったと、病院に行ったらよかったと、いい医療を受けられたというふうに思っていただけかどうかということがそこからは漏れた一つの評価の軸だと思ったので、それを想定しながら、イメージしながらこの評価のフレームを考えたということですので、ちょっとその目的のところとか、そこの議論としてはその辺を補足させていただいております。

●中井委員 たちまち、この間の川西の病院行ったら診察室がこんなふうに並んでいて、皆さん、ここ

へ並んでくれはって、番号でっていうて、明らかに今の市立病院と違うシステムになって、あっ、これは確かにええなど、こんだけ内科だけでも、いや、今でも内科のお医者さん、何か所かあるけども、それ以上にあんだけきれいに並んでしていたら、あっ、これ、分かりやすいというのは、それだけでも満足度が上がると思うんです。ほんで、病院、きれいになったな、あっ、行きやすくなったな、交通の便、ようになったな、それだけでももちろん満足度が上がると思うんです。せやけども、そういうことが結局、市民にとっては大事なことで、ほんで、あとはものごとのために例えば、今でもやっていますけども、医療事故に対して病院側はどんなことしているんやと、そんなこともう当然、今も我々はしているんだから、そんなことはしていったらいいし、もうそこら辺ぐらいしかないのんちがうかな。言うてみて、細かいこと、我々がせえ言われたって、私は、ほんで、アンケート、向こう行って、取れ言うて、そりゃ、今は言うてよろしいで。せやけど、こんな、5年、10年してきているときに何でこんな決めてんと、えっ、何月になったら皆そろって、これ、病院行って、アンケート、これ、こんなもん、無駄やんかと。ようあるやん、PTAの中でも一遍決めたらずっとせなあかんと。何でこれせんあかんと。こんな何でしてんねん、いや、昔、決めましてちゅうの、ようあるやん。それと一緒にやでって。あんまり最初にいろんなこと決めてしもうたら難儀せんあかんと。

●中嶋委員長 どうぞ。

●名手委員 でも、経年的にチェックしていくっていうのは私は大事なかなというふうにやっぱり思っています。

(「大事やけどやれるかちゅう」と呼ぶ者あり)
じゃあ、やるべきやと思っっています。もうこういうふうに指定管理の方向に行くならば。まだ議会は議決していないですよ、これ。

●中嶋委員長 ごめんなさい、候補者です。

●名手委員 候補者ですよということですね。

ちよっとこれ、アンケート、6か月程度って先ほ

ども意見もありましたけども、たとえ6か月程度やったとしても、このサイクルが、今、1つ提案いただいているの、現病院での、市立病院、公立公営の病院でのアンケートになると思うんですよね、これ、結果も含めて、まだ。だから、これは取りあえず今の病院のチェックというふうなアンケートの活用になるのかなと思ったり、先ほどから見て、しているんです。それをきちっとまず、市民の方と患者の方の声をしっかり聞いて、もう一度、その後、で、先ほど指定管理スタートが2026年4月っておっしゃられたと思うんやけども、2025年の4月が完全に現病院での指定管理者制度の導入やったと思うんですね。ここで職員が完全に入れ替わるから、ここでどう変化するのかっていうところが一番大きいのかなと思うんですよね。だから、そのところ。

(「——な人ばかりやからさ」と呼ぶ者あり)

うん、そやね。その辺でまたチェックも、来期の話ですけど、私らどうなるか分からへん話ですけども、そういうふうなことで、ここ何年かはきちんと、新市立病院整備審議会で、ほら、5、6年したら変質するみたいな、委員さんもおっしゃっていましたので、やっぱりきちんとそこまでは、そこまでというか、最低、そこまではきちっと私たちはやるべきやというふうに思っています。

●中嶋委員長 ありがとうございます。

お互い別におかしなこと言っているわけではなくて、形骸化させないようにやろうと。形骸化させずに効果的にやろうということは、やり方も含めて随時議論していただけたらいいんじゃないかなというふうには思いますが、ただ、やることの作業量はやっぱり考えていただかないといけないというか、僕はなぜ提案しない、するっていう話をすごく言っているかという、僕はこれを提案するためにむちゃくちゃ時間を使っているわけですよ。分かりますか。単純に会議に来て、この場で意見を言うだけじゃないんですよ。このフレームを考えるために勉強して、自分で考えて、これを資料化するというところにむちゃくちゃ時間を使っているわけですよ、ほかの提案も含めて全部。なので、アンケートをやるとか、そう

いうことも全く同じ話で、もちろんやりたいのはやまやまだし、全員にやっていただいたほうが当然それはいいんですけども、やっぱりできる限界と誰がやるんかっていう話をちゃんと踏まえてもらわないと机上の空論になるので、もちろんできる限り最大限やりますけども、そこを踏まえて、やったほうがいい論で語るのはできればやめていただきたいなという感じは、これは個人ね、座長としてではなく、個人的な感想としてあります。

●中井委員 マイク入ってへんから言うけどな。

(「入れて言うてよ」と呼ぶ者あり)

意見交換会一つにしてもそやろう。

(「いや、マイク入れて言ってください」と呼ぶ者あり)

ほんまにこれ、意見交換会、ずうっと真剣にやろう思ったらほんまに大変やで、これ。

●中嶋委員長 なので、そういうことを皆さんが理解をしながら、しっかりとできることを工夫をしながらやっていくというのが議会改革の難しいところであり、面白いところでもあるので、そういう意味で、この間もそれでやってきたわけですから。

●中井委員 短期間2、3年のうちに集中してやるんやったら楽やねん。これ、何年も。

(「ちょっとちゃんとマイク入れて言ってくださいよ。マイク入れて」と呼ぶ者あり)

●中嶋委員長 どうぞ。

●山根委員 一番最初に病院でもアンケートを取られると思いますし、今、もうどこの大きなスーパーでもお客様の声っていう何かご意見箱みたいなありますけれども、それは私の評価委員会の、今日、ここに挑んだイメージなんですけれども、そういった個々の患者さん、ご家族さんの声はその病院の方が見て、改善されると思うんですよ。転んだのに何か手も差し伸べてくれへんかったわみたいなん書いてはる人もいてはるかもしれませんし、実際に退院するときにもう歩けないのに、コロナのときに家族が中に入ってこれない、それで看護師さんたちが手を差し伸べてくれなくて、そこの出口まで重い荷物を持ってっていう方もいらっしゃる。それは病院

側が受け取ったらい話であって、この評価委員会のすべきことは分析フェーズが大切だと思うんですね。それで、1人の意見を聞いて、それを伝えるだけっていう、右から左っていうのは、それをするような場所ではないと思っておりまして、分析して、総じてこんな意見が多いけどどうなっているんだとか、市立病院が、ちゃんと命のとりでになっているのかどうかっていうような、患者さん、ご家族さんのご意見が多いものを抽出するであったりっていうこの分析と、それと協議っていうのが改善サイクルの大切なことやと思いますので、そういった目的だと私は認識しております。

●中嶋委員長 ありがとうございます。

ごめんなさい、ちょっとだけ1点補足をさせていただくと、アンケートの対象のイメージなんですけど、まず、病院を使われた方は当然だと思っています。あわせて、病院を使っていない市民の方もターゲットだというふうに思っています。

●山根委員 それは私ありませんでした。

●中嶋委員長 僕も初めはそうだったんですけども、やっぱり税金を使って運営しているということを考えたときに、もちろん病院が必要な人にとっての病院がどうかということもあると思うんですけど、病院をふだん使わない方もどう思っているのかということも大事な視点じゃないかなと。

もう一つは、そこまで広げるべきかどうかはちょっとあると思うんですけど、そういう意味では市民以外の方も病院は使われるわけで、特にこれから立地がいい場所に替わっていきこうというと、周辺の人も含めていろんな人が病院を使われるということなので、その対象をどこまでするかはまた議論があるとは思いますが、少なくとも箕面市民という意味でいうと、使う方も使わない方も病院をどう捉えていたり、どう思っていたり、どういう評価しているのかということを知りたいなというふうに思っているんで、そういう意味で、紙で集めるようなイメージで始めないというふうに言ったのは対象のイメージの違いもあるのかなというふうに思います。ちょっとその点だけ補足をさせていただきます。

でも、おっしゃっていただくように、分析のところもすごい大事だなと思っているんですけど、そういう意味でいうと、ちょっとまだ今日は書き切れていないし、今後、絶対やるとは言い切れないところはあるんですが、そういう意味で、その分析の精度であつたりとか手法をもう少し研究しないといけないなということを思っているのと専門的な方の少し意見であつたり、アドバイスというものも必要になってくるかなというふうには思っています。スキームを検討する段階であつたり、データを分析、実際にする段階であつたりということにはそういうものも必要かなというイメージは僕も感じていますので、そういう形のご意見は非常にそのとおりでなと思います。

ほかどうでしょうか。

どうぞ。

●中井委員 僕のイメージとしては、例えば入り口のところに5つボタン並んどって、あなたはどれですか、待合室のところでボタン並んでいて、あなたはどれですか。僕はほんまにざくっとそんなんでええと思うんですよ。

●中西委員 いや、でも、一人の人が何回も押すんですよ。

●中井委員 いや、それももちろんあり。それも、それは当然、誤差の中にはあり。ほんで、病人でほんまにしんどい、自分は病人で押すあれがあれへん。付添いの人が、あっ、おばあちゃん喜んでたわ、おばあちゃん怒っているがな、何やねん、あの看護師さんの態度。いやいや、あの先生、よかったわ。もうそれで僕はええと思う。

●中嶋委員長 いや、今のはもちろんいいなと思うんですけど、今、中井委員がしゃべりながら押したことが見れるなら僕はいいと思います。なぜそのボタンを押したのかが。

●中井委員 いやいや、せやから、それは後、もしも画面上でやれるんなら、それができるようにしといたら済む。

●中嶋委員長 単純化させたらそういうことってことですね。

●中井委員 うん。

●中嶋委員長 意味合いは分かりますし、あの。

●中井委員 せやけど、グーグルのあれか見ていたらの確やで。箕面市立病院、何々お医者さんが親切に見てくれはってありがとうございますというのもありや、3時間待たしてこれかいうて書いて、1の人もいてるし、あれ、ほんまに的確やわ。あれ、だから、トータルしてしたらいろんな病院比べたときに、なるほど、4.3もありや、3.7もあるな、あっ、なるほどなと思うわ、あれ。

●中嶋委員長 そうですね、だから、アンケートのときにも気をつけないといけないのは、例えば待ち時間が長かって、何やねんみたいな評価があつたとして、やっぱり個別のケースで見ると多分、いろんな事情があつたり、その時々状況があると思うんですけど、量で見たときにそれが出てくれば、当然、それを生み出している根本的な課題があるはずなので、そういうことは当然、改善を求めていくことだと思うんですけど、個別のケースにあんまり陥り過ぎると多分、やり切れない部分が出てくるので、ちょっとそこは手法の組合せというか、補い合い方の組合せで何とかしたいなというのが今思っているイメージです。

●中井委員 そんなはもっと専門家に任せたらええねんや。

●中嶋委員長 どうぞ。

●中西委員 ちょっと先ほどから皆さんのご意見聞いていて、ああ、なるほどな、そういうふうに乗っておられるのかなとか思いながらいろいろ聞いていたんですけども、やっぱりいわゆる一般的なアンケートは本当に病院のほうでも取られると思うんですね。我々がもし仮にアンケートを取るとしたら、我々でないとできないというか、我々がやることに意味のあるアンケートって一体何なんだろうと思って、ずっと耳を傾けていたんですけども、その辺が何かちょっとまだぼんやりしていて、イメージが湧かないっていうのが本音なんです。座長おっしゃったように、議会の力量に合わへんことを幾らこれやります、あれやりますっていうのも無理やという

のもよく分かります、やっぱり私たちには私たちの力量があるのでね。

だから、そういうことも踏まえながら、逆に私たちだからこぞできることっていうのがあると思うので、それをどこに置くかなんですね。もちろんデジタル使ったアンケートもやれば良いと思うんですけども、私はそれだけやったら、名手委員もおっしゃったけれども、やっぱりあれが使えない人たちもいる、例えば障害のある方も含めてですよ、使えない方も、ご高齢の方も含めていらっしゃるので、その辺は考える必要があるのかなというふうに思うのと、病院に来院された人のアンケートっていうのは私は多分、病院が設置しているアンケートでも使えるかなと思っているっていうのが一つと、もう一つは私たちができるのは身近な市民の方、例えば高齢者の団体の方であるとか、広く募っていったらいいと思うんですけど、障害者団体の方も含めて市立病院を利用されているいろんな団体さんの話を、意見交換もしていくっていうのもありなのかな。それは病院が稼働してしばらくたたないと分からないことやと思うんですよ。新しい病院ができて、すぐに皆さんが病院にいらっしゃるかっていったらそんなこともないので。

ただ、名手委員がおっしゃったように、現状の病院を皆さんがどう評価しているっていうのは、それは一つ、ちゃんと捉えておいて、その後は一定の期間を置かないと、病院の利用者なんてそんな毎日毎日いらっしゃる人もいれば、いらっしゃらない人もいますので、ただ、大事なのは本当にこの議会がやる目的と議会でないといけないこと、もちろん第三者機関とか評価の合議も、多分、評価の合議を超えるものをやるんだっていうふうに病院側、市側はおっしゃっていたので、それなりの専門家も全部入れて、一定データは入れてされるだろうと思うんですけども、そういうデータを私たちが一緒にくれていることよりも、それは傍聴したらもらえるわけですから、でも、私たちでしかできない市民の声の拾い方っていうところ辺を工夫すべきではないのかなと思います。そのためにどんな方法があるのか、ち

よっと私のほうも勉強してみますので、この場の、まず、そもそも論のところでも議論させていただきました。

●中嶋委員長 先にどうぞ。

●中井委員 僕は思うねんけど、議会っていうのは市民生活、いろんなことを見なあかんわけ。せやさかい、例えば病院のこれだけ見るっていうんやったら、もちろんアンケートも結構やし、いろんなことできるわな。我々はこれだけが課題やないわけや。もっと教育とか福祉とかまちづくりとか、いろんなところに目配って、その代わり、議会は最終的にこうしようって言ったならそれで決まるんやから、権力はもう全然違うわけや、ほかの評価のしているところと。例えば協和会は、議会が反対しているよとなりや、これ、普通の状態ではやっていかれへんわけや、議会が反対しているんやから。それほど我々は力がある代わりにいろんなところ見なあかんねんから、これ1つにそれだけの力を割くっていうのは僕は難しいんちがうかな。

それは理想は理想やで。当然、アンケートも取って、細かいこと聞いて、1人ずつ話聞いて、それは理想やわな。せやけど、我々はそこにそれだけ力割いてしまったら、ほかのところ、今でもみんな、一生懸命、周りいっぱいやっているんやから、それ、やっていかれへんなって、どれかを捨てんとこれはできへんねんから。せやさかい、できるだけこういうことは簡単に言うたらあかんけど、簡素にしといて、その代わり、最終的に我々は判断したらこうですよということだけはきっちり押さえとったらそれでええねんや。議会ってそんなもんやで。

●中西委員 それやったら、この評価委員会ってつくらんくってもいいじゃんっていうことになるじゃないですか。

●中井委員 いや、それ、評価委員会は絶対要るよ。さっきの監査委員と一緒にやねん。監査委員がいてるからいうて、みんながきっちりせんとあかんよって。これ名前出して悪いけど、今度のダイハツさんみたいにあんなことなってしまうたら大変やんか。あれ、でも、もしも公的な機関であって、監査する機関が

あったらああいうふうにはならんやん。せやろ。それと同じことやねん。我々はそういう立場やねん。それが、せやさかい、細かい細かい、こんな、ここでどんな道具使っているんですかとか、これ、職員の方、どんなことしているのかっていうことを我々が見とったかてしゃあないわけや。それを。

●中西委員 だから、そんなんがいるって言うていないやん。私が言うているのは、例えば病院で働いている人の声とか高齢者の声とか障害があるので市立病院を使っていた人の声とか、そういう人の声をしっかりと聞けるような、そういう声も併せて、もちろん病院もアンケートを取りますから、一般的なアンケートのデータも絶対上がってくるんですよ、それはアンケートは必ず取っているから。だから、それと併せて考えていくっていうことも方法論の一つとしてあるのではないですかっていうお話をしただけの話で、すごい細かい分析とかは、おっしゃるように、我々がやることではないし、無理やと思うので。

●中井委員 今の話。

●山根委員 労働組合。

●中西委員 労組組合になるかどうか分からないですよ。働いている人とかの声もね。

●山根委員 どっちも対象ですか。

●中西委員 いや、私は聞きたいと思っているんです、そこ。

●中嶋委員長 今の時点の話を言うと、そこまでは含んでいません。

●中西委員 私のイメージではそういう人の声も、現場の声も聞きたいな。だって、そういうことは市の評価では出てこないんですよ。市もちゃんとやっていますけれども、市の評価では出てこないから、出てこない部分を私たちが引き受ける言ったら変やけれども、そういうのも在り方の一つではないですかという一意見です。

●中嶋委員長 僕は評価を考えるとときに層で考えないといけないなと思っていて、仮にこの評価委員会が100点の形をつくれたり、運営できたとしても、そもそもとして、これだけで病院の課題とか、全て

が評価できるわけでは当然まずないというのは皆さん、同じ認識だと思いますし、言い方はそれぞれ違いますけど、現実を見ながらやらなあかんっていうことも含めて、そういうことなんだろうなと。

そういう意味で言うと、先ほども言いましたけども、初めにこれをイメージしたときに、じゃあ、それぞれがどういう機能になっていく、もしくはどういう役割をこなすことがその層を一番厚くできるのかということ、もしくはその層の中において今、何が一番手薄なんだろうっていうことを意識しないといけないなと思っているんですね。当然、社会的に配慮が必要な方たちのご意見っていうのは大事だと思っていますし、個々の事例においてご不便とか課題を与えてしまった方については対応すべきだというふうに思います。ただ、じゃあ、それをまず、どこが対応すべき、もしくはどこにアクセスがあるべきかというふうに言うと、そこは僕はまず、個々の議員だと思うんですね。個々の事例のケースにおいて、それぞれの議員さんが把握されたものがまずは第一窓口、層になる部分だというふうに思っているので、だから、それを飛び越して、全部の事例とか個々の事例を全部この場で扱うということは、ちょっと無理かなというふうに思いました。

あわせて、専門的な視点であったり、経営的な病院の視点であったり、市として公的な医療を提供するという視点は第三者機関が担うものだと、担うべきだというふうにいろいろ層を考えていったときに一番、今、現状で足りていないのは、まさにふだん、どちらかという、病院との接点はない、もしくはたまに行ったときにすごい嫌な思いをされたような方が感じているようなこと、いわゆる総体的な市民の方の病院への評価が一番層として手薄な部分なんじゃないかなというのが層として見たときに思い描いたことですね。なので、じゃあ、その一番、今、層として手薄な部分を埋める一つの手法としてこの評価委員会であり、この評価のスキームがうまいこと機能できるんじゃないかなと思って、考えていますので、別にどこがよくて、どこがあかんみたいな話ではなく、まさに中西委員も言われたように、議

会がやる部分はどこなんかということを確認していけばいいんだろうなという話だと思うので、そういう意味で、今日の時点で別にどの意見がいいとかあかんとかいう話では当然ないので、その点はちょっと踏まえていただけたらありがたいなというふうには思っていますということで、ちょっと1時間ほどたちましたので、そろそろ締めに向かっていきたいと思いますが、何かまだ言い足りないことございますか、今日の時点で、別に何も決めませんので。

どうでしょう、大協委員、何かありますか。

●大協委員 この評価委員会っていうのはどの辺までずっと続けていくっていうのは何かあるんですか、スケジュール的なものが。

(「期間」と呼ぶ者あり)

期間みたいなものは。

●中嶋委員長 意味合いを言うと、経年的に評価をしていく、もしくは評価したものが積みたまっていくということには、名手委員が言われたように、意味があるというふうに思っていますので、基本的には継続していくべきかなとは思っています。ただ、中井委員が言われたように、形骸化していくと継続している意味がなくなっていくしますので、やり方を固定するという事はやめといたほうがいいかな。だから、今、提案しているのは取りあえず初めの段階とある程度のサイクルを想定しているので、続けていく中で不具合が出たりとかもっとこうしたらいいっていうことがあれば、形は変えながらやっていったらいいんじゃないかなっていうのが今のところのイメージです。

●大協委員 なるほど。

●中嶋委員長 そもそも僕らもいつまでいるか分かりませんから、そんな先のことまではちょっと責任は持てませんが。

●大協委員 そうですね。

(発言する者あり)

市立病院の評価委員会ってあってあるっていうのは、やっぱり一つのチェック機能みたいな感じで、市民の方が満足していただけるために、少しでも何かいい病院をつくりたいっていうような私らの思い

もあっての評価委員会があって、この評価委員会で、この協議の場で指定管理者の協和会さんとも一緒に話をできたりっていうの、一番そこがすぐいろんな話をできていいのかなっていうのがすごく思いますし、今までからも箕面市のほうもそうですし、市立病院の審議会っていうのも一生懸命いろいろと話をされているとこなので、そこで拾えなかったっていうのは、先ほどから中井委員もずっとおっしゃっていますけれども、何かちょっとでも改善策があるのであれば、それに向けてやはり話は進めるべきだとは思っているんで、その辺りで、今、私も入れさせていただいているんで頑張ってお話していきたいとは思っています。ありがとうございます。

●中嶋委員長 ありがとうございます。

ほか、もうよろしいですか。名手委員はいいんですか。よろしいですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

●中嶋委員長 それでは、一定ご意見をたくさん、いろんな視点から頂きました。ちょっとポイントの絞り方の違いとか言い方の違いはあったとは思いますが、今日の時点ではこれが評価スキームみたいな決め方はしませんので、ただ、進めていくに当たって、何もイメージがないということにはならないので、一応、今日お示しさせていただいたものをベースに今後も議論はしていくということにまず、させていただきたいなというふうに思います。それがまず1点目。

2点目は、改選前までに何ができるのかということとは一定方向性を決めていかないといけないので、一応、皆さんのご意見としてアンケートをやるということ自体にはあまり反対はなかったかなと思うので、どういうアンケートの仕方にするかということの議論を引き続き、改選前の間はしていくということにしたいと思いますが、よろしいですか。

●中西委員 アンケートというよりは、市民の声を集めるということに関しては了解。アンケートがいいのかどうかはちょっと今はクエスチョンです、すみません。

●中嶋委員長 アンケートが、逆に言うたら、駄目

だという理由は何ですか。

●中西委員 駄目だというのではなくて、病院がやるアンケートとどう区別ができるのかっていうのがちょっと見えないっていうのと、手法についてもイメージが湧いていないというか、L o G o フォーム使うのはいいんですけども、それを否定しないですけれども、それプラスのものが無い限り、L o G o フォーム一本でというのは私はしんどいなというふうに思っています。

●中嶋委員長 それ以外のものを、じゃあ、どうやるのかを提案していただけますか。

●中西委員 そうですね、また考えますね。

●中嶋委員長 いや、時間がないから言っているんですよ。今、改選前までに、今日、スケジュールを全体を示しましたけども、今度考えますわっていったら。

●中西委員 じゃあ、言います。私は、アンケートは病院もそれなりにやると思うんです。だから、私はアンケートというよりは逆に声の集め方、それが懇談会になるのか、意見交換会になるのか分からないけども、そういう方法のほうがいいのかというふうに思っています。

●中嶋委員長 だから、それをどういう、分かりました。それはご意見としてまず聞きましたが、まず、アンケートだけというか、段階をちゃんと踏んでいるということをご理解いただきたいんですけども、要するに手法の組合せが大事なので、アンケートがよくて、ほかのいいみたいな話は僕も基本的にはないと思っているので、その点は別に中西委員の言っていることとずれてはいないと思うんですね。アンケートっていうのは、アンケートに適した手法、要するに把握したい中身がアンケートに適しているかどうかということが前提ですので、そういう意味で満足度を把握するということが自体に異論がないのであれば、アンケートという手法は指定できないはずなんです。かつ、ただ、中西委員が言われたように個々の事例から分かることも当然あると思いますし、そういう場面でしか把握できないこともあると思いますので、言っているように、分析フェーズ

にそのことを書いているので、その組合せによって補っていくと。だから、どっちかがよくて、どっちかが駄目とかいう話じゃなくって、組合せによって補っていくということで僕は中西委員が言っていることとずれていないというふうに認識をしていたんですね。

もう一つは、アンケートやったこと、多分あると思うので分かっていただけだと思うんですけど、同じようなアンケートっていうのが一番使えないんですよ。要するに目的を完全に一致させないといけないというか、アンケートってちょっとでも項目が違くとクロス集計とかも含めて全然使えないです、実際はっていうのは多分、お分かりだと思うので、参考として違うアンケートがありますっていう使い方はできると思うんですけど、基本的には自分たちの目的に沿ったアンケートをやらないと自分たちの欲しいデータは取れないということだと認識しているので、そういう意味で自分たちでまず、アンケートが必要だということと、アンケートと中西委員が言われているようなことは、確かにアンケート自体でそれをカバーするのは無理なので、組合せの手法として考えませんかという感じの提案だと思っているので、その点でいうと、別にアンケートをすること自体は否定されていないんだろうなというのが僕の認識だったんですよ。

●中西委員 アンケートは一本でということではないという意味ですよ。

●中嶋委員長 そうです。改選前にやるのがまずはアンケートの中身をもう少し議論したいなと。当然、さっき言ったように、そこにどういう手法を組み合わせ、今言われたような視点とか実際の話の補っていくのっていうのは必要だと僕も認識しているので。

●中西委員 改選前にやるアンケートっていうのはいわゆるコントローラーのことやと思ったらいいんですか。

●中嶋委員長 そうです。実際にやるアンケートではなくって、どういう評価項目をつくったらいいのかということの把握するためのアンケート。アンケ

ートをする前のアンケートです。ちょっと言い方がややこしいです。

●中西委員 だから、セグメントをするかどうかも含めて今後考えるっていうこと。

●中嶋委員長 そうですそうです。という意味合いだったので、アンケートを否定されているわけではないという認識だったので、アンケートの中身を議論するという方向でいいですかということをおさっきお諮りしましたが、それを聞いた上ではどうですか。

●中西委員 はい、了解です。

●中嶋委員長 大丈夫ですか。

●中西委員 はい。

●中嶋委員長 じゃあ、一応、皆さん、異論がないということですので、まずは改選前にすることの方向性としては、セグメントも含めた調査基準とか項目を検討するためのアンケート内容を考えようということをおさせていただきたいと思います。アンケートの中身がシンプルなのがいいのか、どこまで踏み込むべきなのかというのはその中で議論させていただきたいと思ひますし、それ以降に中西委員が言われた手法の組合せによる補い方もちゃんと議論させていただきますので、その点も加えて、今日はそういう取りまとめということにさせていただいてよろしいでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

●中嶋委員長 では、そういう取りまとめに今日はさせていただきます。ということで、2番のスキームについてはいろいろご議論をいただきましてありがとうございました。全然想定内です。想定内というか、これぐらい議論が、意見が出ないと深まらないと思ひますので、ぜひいろいろご意見を頂けたらと、引き続きよろしくお願ひします。

協議事項3 その他

●中嶋委員長 最後、その他ですが、次回開催がいつでしたっけ。まだ決まっていないうやったかな。

(「春頃」と呼ぶ者あり)

春まで飛ぶ。

(「春って、広い」と呼ぶ者あり)

一応、可能であれば2月頃。

(「2月」と呼ぶ者あり)

議会の前ですね。可能であればです。させていただこうと今もくろんでおりますが、ちょっとほかとの兼ね合いもあるので、必ず開催できるかどうかということは今日の時点では決められません。仮に開催しなかった場合は4月以降の開催になると思うんですが、その間、ちょっと空いてしまうともったいないので、できる限り皆さんのほうに情報提供はさせていただこうかなと。

●名手委員 評価委員会はいつですか。

●中西委員 第三者。

●名手委員 第三者評価、市の。

●中嶋委員長 第三者評価がいつとは。

●名手委員 まだ決まっていなかったですか、それ。

●中西委員 できたら、その後のほうがいいよね。やっぱりその内容。

●中嶋委員長 第三者評価委員会の評価スキームが発表されるのがいつかっていうことですか。

●中西委員 そうそうそう。

●中嶋委員長 ちゃんと聞いていませんが、年明けまでには答申が出るという話を聞いたような気がします。

●中西委員 年明けまでに。

●名手委員 ほなら、年内。1月に。

●中西委員 年内にある。

●中嶋委員長 いや、分かんないですよ。前の予定の時点の話なんで、実際、今がどうかは分かりません。

●中西委員 1月にしろ、その後やったらいいじゃないですか。

●中嶋委員長 なので、1月の中旬以降であれば、第三者評価委員会の評価スキームはある程度示されているんじゃないかなとは思ひます。

ということで、開催時期は全体のほかの会議体との調整をした上で、やる場合は事前に皆さんに日程調整をさせていただきたいということと会議がもしちょっと少し先送りになる場合はその間にできるだけ情報提供等をさせていただけたらなと思ひており

ますので、今日はそういう形で終わらせていただきます。

では、最後、ほか、皆さんから何かございますでしょうか。いいですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

●中嶋委員長 では、本日の議題は以上で終了とさせていただきます。どうも長時間、ありがとうございました。今後ともよろしくお願いします。

午後 2 時 26 分 閉会